



国臨協関信

HPアドレス [http:// kanshinshibu.org](http://kanshinshibu.org)

平成24年 1 月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
(独)国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発行者 田島紹吉
編集委員 浅里 功・菅原恵子・平原博美
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443



謹賀新年

平成二十四年 元旦

お知らせ 関信支部ホームページ・Eメールの
アドレスが変わりました

HP アドレス [http:// kanshinshibu.org](http://kanshinshibu.org)
 モバイルサイトアドレス <http://kanshin.kanshinshibu.org>
なお、パスワードの変更はありません
 E-mailアドレス kanshin@kanshinshibu.org



新年の御挨拶

国立病院臨床検査技師協会関東信越支部 支部長 田 島 紹 吉



新年明けましておめでとうございます。
会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年3月11日に発生した未曾有の巨大地震は各地に甚大なる被害を与え、関信支部施設においても建物や機器の損壊がありました。また、直接的な被害はなくとも緊迫する電力状況から計画停電、鉄道の間引き運転なども多くの影響を与えました。今も多くの方々が復興に向け努力されておりますが、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。関信支部ではこのような状況を踏まえ、4月開催予定の文化活動「退職会員を囲む合同交流会」を中止、7月に「退職会員を囲むビアパーティー」を開催致しました。

第39回国臨協関信支部学会は、学会テーマ「信頼される臨床検査技師を目指して」、サブタイトル「データ管理と検査説明から患者サービスに貢献できること」とし、長野県立木曽病院の宮島喜文先生、市立岸和田市民病院の杉山昌晃先生にご講演頂きました。学術セミナーは、改訂された「標準採血法ガイドライン」

を取り上げ、竹内美保先生にご講演頂きました。併せて関信施設に採血の現状についてアンケート調査を実施、現状の分析、問題点の提起、その解決策などをご討議頂きました。また学会参加者は350名を超え、学会長としては喜ばしい限りでした。今年は第40回の記念学会となります。記憶に残る学会となるよう、役員一同知恵を出し合い企画を進めております。

支部研修会は、特に国臨協本部事業とタイアップした内容で企画、10月にISO15189、11月は検査相談室をテーマに開催致しました。事業の経過や今後の取り組み方などを具体的、丁寧にご説明頂きましたが、今後も皆様のご意見、ご要望を基に企画立案して参ります。

ホームページに関しては、容量の問題で一時閲覧出来ない時期があり、大変ご迷惑をおかけ致しました。これを機にプロバイダーや契約条件を全面的に見直し、会員専用ページも新設致しましたので、是非ご活用ください。

最後に、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

独立行政法人国立病院機構 関東信越ブロック事務所統括部医療課 臨床検査専門職 上 條 敏 夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

国臨協関信支部会員の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。

昨年中は皆様から多大なるご支援とご協力を賜り、心から感謝を申し上げますとともに、日頃から単身赴任や遠距離通勤を余儀なくされている皆様には、ご苦労をおかけしていることに対して、心より敬意を表したいと思います。

昨年を振り返りますと、危機管理に対する教訓と人々の絆の大切さを学んだ激動の1年となりました。私にとりましては、4月に大役を拝命し重圧の中、新米専門職として日々悪戦苦闘を繰り返してまいりました。不慣れなことも多く、皆様にはご心配とご迷惑をおかけしたこと、なにとぞご容赦願いたいと思います。職務の一つひとつが初めての経験で、手探りにならざるを得ない状況でございましたが、皆様の温かいご支援とご協力のおかげで今日があることを実感しております。

なかでも関東信越ブロックの新しい人事管理の制度として、主任技師等任用候補者選考がスタートし、各施設では試験に対す

る準備や研修等でご協力をいただきました。また、試薬の共同購入においても、各施設の皆様をはじめ集計作業等にご尽力いただいた関係各位のご協力により定着化してきております。いろいろな面で多大なご協力をいただきましたこと、この紙面をお借りして改めて感謝を申し上げます次第でございます。

さて、本年も国立病院機構の定められた中期計画に基づき使命を果たすべく、我々も一丸となって業務遂行に当たらなくてはならないと考えております。さらに、病院経営の健全化や検査の質向上、そしてチーム医療への参画や組織的な人材育成等、これらに向けた各種の取組について、皆様には更なるご苦勞をおかけすることがあるかと思ひます。しかしながら、臨床検査部門における転換期として、次世代に引き継いで行くためにも、国臨協ならびに各協議会とも協力し合い、我々一人ひとりが自覚を持ち、立ちばだかる壁を乗り越えていかなければならないと考えております。

皆様方の変わらぬご支援とご協力をお願いいたしますとともに、皆様方のご健康とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



茨城地区会会長 ……………青 木 貞 男



茨城地区会を代表いたしまして会員の皆様に新春のお喜びを申し上げます。

新年を迎え、会員の皆様それぞれに決意や抱負を新たにしていると思います。昨年は、東日本大震災という不幸な出来事もありましたが、女子サッカー「なでしこジャパン」や女子バレーボールの活躍は私たちの心に勇気を与えてくれたと思います。特に女子バレーボールでは、160cm以下の竹下選手や佐野選手の活躍に感動を覚えました。佐野選手はリベロというポジションで他のプレーヤーと違うユニホームを着た守備専門のプレーヤーです。ルールに詳しくないので調べたところ、リベロはサーブやアタックなどの攻撃的なプレーが禁止されているそうです。ただひたすらボールを拾うだけでアタックやブロックの様な華やかさはリベロにはないのですがボールを拾って拾って拾いまくってアタックに結びつける姿に感動を覚えたのは私だけではないと思います。チームや組織が成果を上げるためには、表舞台に立つ人材が必要ですが、目立たないが裏舞台で支えるリベロ的な人材も必要であると思います。国臨協についても同様なことが言えると思います。

茨城地区会では、昨年3施設37名の内9名が県外からの転入でした。7月には総会、11月には地区会誌「いばこみ」を発行しました。12月には、スーパー銭湯で忘年会を行い1年間のアカを落とし地区会の絆を深めました。

本年は、リベロ的な人材にも光が当たるような活動を展開したいと考えております。また、会員のコミュニケーションをより深く、資質の向上と技術の研鑽を進めてまいります。

最後に茨城地区会を代表しまして関信支部役員並びに会員の皆様のますますのご発展とご多幸をお祈りいたします。

栃木地区会会長 ……………峰 岸 正 明



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、かつて経験した事のない東日本大震災が発生し、私たちの生活に多大な影響を及ぼしました。さらに福島原発の事故も重なり、さまざまな所で震災の影響が残っています。被災された方々、そして、その家族、友人の方々に御見舞い申し上げます。

さて、栃木地区会はNHO栃木病院とNHO宇都宮病院の2施設で組織されていますが、どちらも県庁所在地の宇都宮市に立地しています。宇都宮の漢字を一字ずつ紐解いて使用例を探してみると、宇は「宇宙、気宇壮大」、都は「都市、都会」、宮は「宮殿、宮中」、宇宙にある大都会の宮殿となり壮大な街のイメージが浮かびますが私だけでしょうか。

ここ数年、宇宙がブームになっているようです。それは宇宙をテーマにした漫画の連載や惑星探査機「はやぶさ」の帰還、古川宇宙飛行士による宇宙ステーションでの活動など話題が沢山あることでも分かります。「はやぶさ」は小惑星「イトカワ」の探査が役目でしたが、この「イトカワ」の名前の由来は、ロケット開発の父糸川博士にちなんだものです。真偽は分かりませんが糸川博士は実験で失敗をしても「失敗」と言わず「成果」と言ったそうです。失敗を恐れ出来ない理由をみつけてやらないより、出来るようにする方法を見つけて取り組む姿勢が大事と考えます。

2012年は栃木地区会会員全員がこのような姿勢を持って、

前進したいと考えていますので今年も昨年以上に宜しく申し上げます。

群馬地区会会長 ……………小 川 勝



新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員みなさまには健やかに新たな年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年、3月11日に発生した東日本大震災は今までに見た事のない凄まじい映像で、家や車がまるでオモチャのように流されていく光景は今でも目に焼き付いて、おそらく忘れる事は出来ないと思います。そして、津波により破壊されてしまった原子力発電所の放射能汚染は今後何十年にわたり日本を脅かすものとなるでしょう。数年前に医療安全管理研修に参加した際の講義で「危険を内在しているシステムでは、万一エラーをした時それが直ちに事故に結びつかないように多重の防護壁を用意しておくのが普通で、医療システムの多重防護壁は極めて弱い。そして一番防護壁の多いシステムは原子力発電である」と聞いた事があります。その最も多い防護壁を一瞬で破壊してしまった津波の威力は想定外の破壊力だったと思います。ただ起きてしまった以上、今後の防止策として、発電（原子力）のあり方を考えなければならぬのではないのでしょうか？一日も早い復興を願っております。

群馬県は昨年人事異動の関係で引継に少々時間がかかりましたが、大川会長のもと7月にボウリング大会及び懇親会を開催する事ができました。震災の影響か？参加人数は10数名と少なめでしたが、ボウリング、懇親会共大変盛り上がりしました。また10月15日には新人育成を目的とした教育講演を行いました。参加人数28名と多数参加され活発な質疑、意見交換ができて有意義な教育講演となりました。

今後も会員相互の親睦とスキルアップを目標に、地区会活動を行いたいと思います。

最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念し新年の挨拶と致します。

千葉地区会会長 ……………内 野 厳 治



新しき年を迎え皆様方のご活躍をお祈り申し上げます。

昨年は千年に一度と言われる東北地方を中心に襲ったマグニチュード9.0の大地震は、津波の恐怖、原子力発電所の水素爆発による放射能物質飛散を引き起こし、想定外の大惨事となり約2万人の多くの犠牲者を出し、自然の力、原子力発電の今後について考えさせられた「災」いの1年であった気がします。(合掌)

会員の皆さんはどのような年だったのでしょうか…

千葉地区会は検査学術・技能の向上、会員および施設相互の交流・親睦を目的に掲げ活動し、昨年7月で設立30周年を迎えました。

このことは諸先輩のご努力と会員諸氏および関係各位によるご支援の賜であると思います。

当会は特に長年にわたり検査精度管理向上に取り組み、関信支部学会にてその成果を発表し、「学会特別賞」を頂いた事は皆さんの記憶に新しいと思います。

年に1回の定期総会、2回の勉強会、1回の文化活動を計画し、勉強会に於いては、他の勉強会では余り取り上げない内容に心掛け、一昨年「薬剤耐性試験と耐性菌について」と昨年「感染対策の基本とICTラウンド」のテーマで外部講師と感染管理認定看護師にご講演頂き、2年にかけて院内感染防止について取り組み、職場環境衛生の注意点・スタンダードプリコーションなどについて学び、医療施設従事者の院内感染症防止に対する意識の共有が如何に大切であるかを再認識致しました。

勉強会終了の後は「その日の反省すべき点はその日に」を基本とし、反省会という名の懇親会を計画し、会員相互の親睦と明日への活力とすべく開催しています。

一昨年の文化活動は勉強から離れ、遊び一筋ボーリング大会により違った意味での汗をかき親睦を深めました。今年は春に歓迎会を兼ねた行事を役員一同で計画中であります。

また昨年は第39回国臨協関信支部学会に於いて地区会コーナーの活性を図るために新設された「地区会コーナー優秀賞」を設立30周年に受賞できたことは今後の地区会活動の励みになるものと思われま。

今年も今まで築かれた千葉地区会活動を基本とし、楽しく・身のある千葉地区会として活動していきたいと思ひます。皆さんも楽しく・身のある1年をお送りされることをお祈り申し上げます。

神奈川地区会会長 ……………樋 口 久 晃



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には輝かしい新春を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。また、昨年発生しました東日本大震災において多大な被害に合われた施設に対しましては、心からお見舞い申し上げます。震災の影響で気持ちが落ち込んでいる時に、なでしこジャパンのワールドカップ優勝は本当に勇気づけられた出来事でした。

さて、神奈川地区会では昨年10月にNHO久里浜アルコール症センター研修棟大会議室において平成23年度第30回地区会総会が行われました。総会出席者は37名で、午前中は技師長協議会神奈川地区総会に副技師長を交えて行い、午後からは神奈川地区会総会、学術講演では「認知症の早期診断と当院の物忘れセンターの取り組み」と題して久里浜アルコール症センター内科診療部長（臨床検査科長）の松井敏史先生にお話をいただきました。神奈川地区会は平成22年度の第29回総会から開催期を10月に変更し、その第1回目でも大雨の台風だったそうです。「雨にも負けず、風にも負けず」そんな地区会は現在会員数59名、4月に4名の会員が入れ替わり、新たな気持ちで出発しました。

昨年は主任技師の任用候補者選考、検査相談室、ISO15189と新たな取り組みが行われ、更にキャリアパスの構築という大きな課題がある中、検査技師として広い視野をもって活性化できるよう努めていかなければなりません。そのためには神奈川地区会では一致団結して協働していかなければならないと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して新年の挨拶といたします。

新潟地区会会長 ……………御子柴 佳 剛



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には健やかに新たな年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

雪国新潟県は昨年にも積雪が多く、官舎の周りの雪かきに追われる日々が続き、帰省の際も吹雪の中、高速道路を恐る恐る運転して帰りました。今年の降雪予想は平年並みということですが、穏やかな年であってほしいと思ひます。

さて新潟地区会は、西新潟中央病院・新潟病院・さいがた病院の三施設からなり、昨年4月の人事異動で4名の会員が入れ替わり、総会員数24名で構成されております。昨年の地区会活動は会員の親睦を図るための交流会や研修会・総会を開催し、また地区会報を3号発行致しました。また、地域医療活動として、兼ねてから実施している中越地震及び中越沖地震被災地におけるエコノミークラス症候群フォローアップ検診に加え、新潟県とエコノミークラス症候群予防・検診支援会との合同で、東日本大震災の後、県内へ避難をさせた人達に対するエコノミークラス症候群に係る検診活動を4月から5月にかけて土日祝日に計5日、18避難所で実施し、多くの会員がボランティアで参加を致しました。これらの活動に対し、新潟病院の品田技師が第39回国臨協関信支部学会において支部表彰を受賞致しました。

これは関信支部会員の皆様のご支援があったからこそと感謝申し上げます。昨年は日本中で地震や台風・集中豪雨など多くの災害がありましたが、今年は天災が無いことを祈りたいものです。

最後になりましたが、関信支部役員並びに会員の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

長野地区会会長 ……………中 野 正 直



新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には、新春のお慶びを申し上げます。

長野地区では、昨年4月、長野病院が信州上田医療センターと名称変更になりました。また、地区活動では6月に総会と第1回地区研修会、11月には関信ブロック専門職を招聘し第2回研修会を開催、地区ニュースも2回発行し地区連帯を深めていきました。

昨年は振り返ると、災害の多い年でした。東日本大震災に続き、長野県北部地震。それに伴う福島原発による放射能汚染、6月の松本地震、台風被害、危機管理「備えあれば憂いなし」が今更ながら重要であることを再認識させられ、災害時の臨床検査部門からの積極的な情報提供をするには、スペシャリストである前にゼネラリストでなければならないという、神戸医療センター新井技師長の言葉を思い出しました。他の話題ではT P Pの事です。T P Pによって医療は自由診療となり、民間保険の導入で「国民皆保険制度」が出来なくなるという懸念があり、取り越し苦労かもしれませんが、われわれ臨床検査分野への影響はいかかなものかと少々心配です。一方で明るい話題もありました。小惑星探査機「はやぶさ」が7年間の期間と総距離60億キロで数々のトラブルを克服し、イトカワの微粒子搭載カプセルを地球に運んだことです。日本の科学技術の高さと情熱には感動させられました。

「情熱がない人は元気がない、元気がない人は何も手に入らない」ドナルド・トランプの言葉「組織はトップの姿を映す鏡のようなものだ」産経抄より今年はコミュニケーションスキルアップを図りたいものです。本年が皆様にとりまして、明るく良い年ありますよう祈念いたします。

東京・埼玉・山梨地区技師長会会長 …日 吾 雅 宜



新年を迎えるにあたりご挨拶させていただきます。

昨年の3月11日、未曾有の東日本大震災が発生し、その傷跡は今なお暗い影を落としています。しかし、被災地では復興に向け官民一体となって動き出しています。その復興が着実に進みますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、東京・埼玉・山梨地区においては、技師長会はありませんが他地区に見られるような地区会はありません。かつ、山梨地区会が別に設置されているという複雑な構造となっています。

昨年開催された東京・埼玉・山梨地区技師長会総会においてもその件が話題となりました。

東京・埼玉・山梨地区の会員の皆様に情報提供ができる場を設ける必要があるだろう。臨床検査専門職から直接お話を聞ける機会が必要だろう。このような議論の中、地区会設置の是非を含めどのような形がよいのかを今後の課題の一つとし検討していくことといたしました。

多くの皆様のご意見をお伺いしながら東京・埼玉・山梨地区がより発展するよう努力していきたいと考えます。

どうぞ皆様のもより多くのご意見をお聞かせ下さいませようこの場をお借りしお願い申し上げます。





NHQ茨城東病院 …………… 小 林 昌 弘



謹んで新年のご挨拶申し上げます。国臨協関信支部の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと存じます。私は昨年2月1日に茨城東病院に採用となり、早いもので1年が経とうとしています。今回、このような機会を頂き、改めてこの1年のことを振り返ると、色々なことを経験した年だったように感じます。

茨城東病院に採用になる前は、埼玉病院で非常勤職員として働いていました。1月の初めに正式採用の話を受け、日々の業務を行う傍ら、引っ越しの準備を進め、慌しい中、茨城での新生活が始まりました。茨城東病院では初めに検体業務を担当することとなり、2月の1ヶ月間はただ業務を覚えることに必死でした。3月に入ると多少ではありますが業務や生活に落ち着きが出始めたように感じましたが、それも数日のことであり、今度は東日本大震災を経験することとなりました。

震災から9ヶ月が経った今、病院は以前と変わらない落ち着きを取り戻し、私もようやく日々の業務や生活に落ち着きを持てるようになったのではないかと感じています。やはり昨年のことを振り返ると、落ち着いて物事に取り組むことが少なかったように感じます。今年はその点を反省し、落ち着きを持って様々なことに取り組んでいければと考えています。

最後に関信支部の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

NHQ栃木病院 …………… 内 海 雅 文



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年4月に栃木病院で新規採用となり、生化学・血液・一般検査を担当させて頂いたものの、右も左も分からない実際の検査業務、初めての当直業務など目の前のことをこなすことに精一杯でした。あっという間に半年が過ぎ、栃木にきて初めての冬越しです。この半年間は教科書のようにはいかない検査結果、尿沈渣や血液塗抹標本の所見を目の当りして、日々の出来事すべてが勉強でした。その中で、諸先輩方の丁寧なご指導もあり、少しずつではありますが成長し、自分に余裕が出てきました。今後は、各種認定試験を視野に入れた業務に取り組むべくスキルアップを図りたいと考えています。

また、当院は今年より新病院建設に向け、これからさらに慌たしくなると思います。そのような中でも、臨床検査の基本である正確かつ迅速な検査結果を報告するだけでなく、今まで経験のない検査に関する知識や技術を早く習得し、臨床や病める患者さんのために少しでも貢献できるよう日々努力したいと思います。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

NHQ西群馬病院 …………… 河 本 峰 奈



明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

西群馬病院に転勤になり、2年が経とうとしています。前施設での経験を生かし生理機能検査全般を主として行い、特に心臓および腹部超音波検査のスキルアップに努めてきました。今年は頸部・下肢血管超音波検査、乳腺・甲状腺超音波検査の習得に重点を置いて日常業務に取り組み、超音波検査士体表領域の取得を目標にしています。2月に超音波検査士試験が控えているので、まずは合格に向けて邁進したいと思います。ただ試験が終わった途端にだらけた生活を送ってしまうのが常です。日常検査を行っていても、経験不足、知識不足を痛感し、自己研鑽の必要性をひしひしと感じています。来年の今頃に少しでもステップアップできたと思うように試験後も気を引き締めて日々努力を重ねたいと思います。

西群馬病院は新棟立ち上げに向け今年はさらに忙しくなることと思います。電子カルテ化、機器選定など想像以上に大変なことと思いますが、なかなかできない経験のため生理検査の部門システムのみならず、検査科全体のシステム構築に積極的に取り組んでいきたいです。

最後に皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

NHQ下志津病院 …………… 太 田 美 和



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

私は昨年の4月に育児休業から復帰し、主に細菌検査に携わっています。復帰当初は夜間緊急検査など仕事の感覚を取り戻すのに大変でしたが、同僚に支えられなんとか無事に新しい年を迎える事が出来ました。また当院では同時期にICT活動が本格稼働し始めました。当初はラウンドのチェックポイントや、ICTとして臨床が求めているデータが提供できているかよく判らず困惑しましたが、主任を始めICTメンバーのご指導とご協力で院内が整備されつつあります。さらにICT活動を通して、他部門と連携することの重要性を再認識しました。

また、千葉地区会では耐性菌やICT活動についての勉強会を開催して頂き、とても勉強になりました。

昨年は仕事と育児を両立することで精一杯だった私ですが、今年は院内感染対策の充実を図るためICTに積極的に参加するとともに、自分のスキルアップのためにも認定臨床微生物検査技師の資格取得に向けて日々努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本年もご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

NH O 信州上田医療センター ……松 井 孝 男



国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様が健康で健やかな新年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。西暦2012年、私は今年で四回目の年男を迎えることができました。これも一重に、これまで勤務してきた上司のご指導と同僚の暖かい励ましの中、いつの日も安らぎを与えてくれた家族の支えがあつ

てのことで深く感謝しております。さて、昨年は病院機能評価ver.6の受審が5月にあり、準備に際しては、技師長はじめ副技師長を中心として、検査科全職員が一丸となり取り組みました。また、従量課金方式による分析機器更新の機会にも恵まれ、検査機器の選定から検査室内の配置、情報マスター修正などに携わり、その甲斐あって、平成23年11月21日より、更新された検査機器での運用を無事迎えることが出来ました。目標に向かってやり遂げた充実感と機器更新に伴う貴重な経験を得られた年となりました。また、業績面では5月に糖尿病学会(札幌)、10月に国病学会(岡山)と、糖尿病療養指導士として、活動した成果を報告する事が出来ました。さて、年頭にあたり新年の抱負を述べさせていただきます。一として、地域での活動を通して東北信L-CDE育成に貢献し、自らも自己研鑽できるこの活動を今後も継続していきたいと思ひます。二として、POT(従量課金方式)での実質的効果の検証を進めていかななくてはならないと考えています。三として、家族への思いを大切に育み、さらに家族の絆を大切にしていきたいと思ひます。以上、今年はこの三つを抱負に上げ、新年をスタートしていきます。

最後になりましたが、今年一年が皆様にとって良き年である事をお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しく願ひいたします。

(独)国立成育医療研究センター ……石 田 賢 史



新年明けましておめでとうございます。

成育医療研究センターに採用され、今年で4年目となりました。現在、輸血・細菌検査に携わっていますが、どちらも学生の頃から苦手な検査でした。輸血・細菌検査を始めた頃は、ルーチン検査をこなすのがやっとの思ひでしたが、今では輸血・細菌検査主任や周りの方々の指導により、担当業務をはじめ、検査室の一員として積極的な対応を心掛けるようになりました。また、どの検査に対しても苦手意識がなくなり、何事にも興味を持って検査を行えるようになりました。

近頃では、輸血や細菌検査をはじめとして、ICTなどの他職種の方々とコミュニケーションを積極的に取るようになり、「チーム医療の一員として仕事をしているんだな」という気持ちが強くなっています。時々、ドクターとの会話で英語や専門用語が多く飛び交うと、自分の勉強不足を痛感し、落ち込むこともあります。知識不足や経験不足は、常に検査技師として日頃から目標をもって取り組むことで、自分の目指す検査技師になれると思っています。毎年、新年には意気揚々と目標を立ててはいるのですが、昨年はあれもこれもと沢山目標を立ててしまい、気づけばどれも中途半端になっていました。「二兎追うものは、一兎も得ず」です。今年こそは、1つの目標に向けて確実に取り組んで行きたいと思ひます。達成されたら次の目標というスタンスで、大きな目標の1つである認定資格取得に向けて努力して行こうと思ひます。

今年は辰年です。龍は青天に威風堂々とまっすぐに向かつて昇っていくというイメージがあります。それにちなんで今年は決めた目標に向かって一気に駆け上がっていけるそんな年になるように頑張っていきたいと思ひます。皆様にとっても今年が実り多き年でありますよう祈念いたします。

NH O 神奈川病院 ……山 田 貴 正



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平成22年4月に神奈川病院のある秦野市の土を初めて踏んで早や2年が経ち4月には3年目に入ろうとしています。

秦野の町は20時ごろには人通りも疎らになり、金曜の夜でも飛び込みで居酒屋に入れるなど、都会に住み慣れた私としては中々の驚きでした。そして病院周辺では、ヘビやクモは言うに及ばず野生のシカやサルそして終いにはクマが出たり、本当に大自然をまじかに感じながらの2年半でした。

当検査科ではFMSを行っており、この契約の更新が来年に控えております。そして当院の患者数や検体数も私が赴任した当初より増え、現行の測定機種では処理能力の限界になりつつあります。そのことを踏まえ機種選定や項目の見直しなど1年間の目標として取り組んでいきたいと思ひます。

最後に会員皆様方より一層のご発展とご多幸をお祈りしますとともに、これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしく願ひいたします。

NH O 新潟病院 ……南 雲 伸 夫



昨年は東北大地震、大雨、台風と日本のあちこちで大きな災害が続いた年でありました。なかなか例年の様に明けまして…という気分では無い方も多くおられる事と思ひます。亡くなられた方、被害を受けられた方からのご冥福とお見舞いを申し上げます。

昨年の災害では自然の驚異をまざまざと見せ付けられた形になりましたが、同時に生きている事の素晴らしさ、健康でいれる事の有難さを痛感させられた年でもありました。

そこで、今年の抱負ですが何より健康が一番という事で、「毎日規則正しい生活をする」ということにしたいと思ひます。自分自身まだまだ若い気ではいるのですが体の方はどうも正直な様で、家に帰って食事の後チョット一休みのつもりがついついウトウト、気がつくとき夜中の一時、二時、ともすると明け方なんて事も珍しくありません。体調管理も仕事の内、これでは健康どころか仕事にもヨロシクありません。

規則正しい生活、一番簡単な事の様ですが、スピードワゴンよろしく自分に「甘〜い」私にとっては一番難しい事の様な気がします。ですが、自分達の頃には定年が65歳に…などと言う話も出ておりますので、何とか頑張って実践し身も心も健康で定年を迎えたいとささやかに思っております。もちろん怪我をしない程度のハードルを常に置いておく事を忘れてはいけません。

これからも会員の皆様健康で益々活躍されます事をお祈りしつつ、拙い抱負を終わりたいと思ひます。

どうか今年も宜しく願ひ致します。

平成23年度退職会員を囲む合同交流会

■ 日 時

平成24年4月21日(土) 16:00~18:30 (15:30 受付開始)

■ 場 所

アルカディア市ヶ谷

同日は、同会館にて関信支部定期総会および研修会を開催する予定です。

詳細につきましては後日お知らせいたします。

第3回国臨協関信支部主催研修会に参加して



NHO東京病院

瀬 下 明 子

平成23年10月23日(土)国立国際医療研究センター国際医療協力部5階大会議室において「第3回国臨協関信支部主催研修会」が開催されました。「ISO15189取得に向けての取り組み方について」と題して積水メディカルK.K CRS部 技術・CS室 マネージャー、日本適合性認定協会 試験所審査員の荻谷文雄先生の講義と、「ISO15189内部監査員養成セミナーに参加して」と題して(独)国立国際医療研究センター国府台病院の石井幸雄先生の講義という2部構成でした。

第1部の荻谷先生はISO15189の導入と基本、ISO15189取り組みの準備、QMS(品質マネジメントシステム)の構築、

認定申請の準備、認定登録フロー、ケーススタディー、SOP(標準測定作業書)について、という項目の講義内容でした。ISO15189の理解の仕方のコツは、初めから読まずに日常業務に近い内容から読むこと、また具体的に準備を進める手順について、整備する書類及びその注意事項、組織の準備、SOPの整備の仕方、そしてとても日数を要すること等について、膨大な内容でしたがポイントを押さえた大変実践的な講義でした。これからはSOPありきの検査室であり、それが周知徹底されている事の大切さを学びました。自分の業務のトレーサビリティ確立のためにもSOP作成に取りこんでみたいと考えております。第2部の石井先生の講義は内部監査員の養成セミナーの内容を要約して解説していただき、内部監査員とはより良い検査室に導く重要な役割なのだと認識できました。最後になりましたが、ご多忙の中研修会を企画して下さいました国臨協関信支部役員の皆様、講師の先生方に深く感謝申し上げます。

第4回国臨協関信支部・栃木地区会共催研修会に参加して



NHO千葉医療センター

市 川 遼

平成23年11月26日(土)、大宮ソニックスシティビルにおいて第4回国臨協関信支部・栃木地区会共催研修会が開催されました。

今回の研修会は二部構成となっており、第一部では栃木地区の二施設から症例報告が行われました。内容は、NHO宇都宮病院より「胸水貯留の一例」、NHO栃木病院より「高CEA血症を呈する原発不明腫瘍の一例」でした。続いて第二部では国立国際医療研究センター国府台病院技師長である當銘良也臨床検査相談コーナー(室)設置推進委員会副委員長を講師に迎え、『臨床検査説明書「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」完成までの経緯」と題しての講演が行われました。

第一部の症例報告では、それぞれの病院の貴重な症例を拝見させていただきました。難解症状を呈する患者の検査から診断におけるプロセスだけでなく、臨床検査技師と診療側との密な連携が重要であることを学びました。また、活発な質疑応答が展開され、様々な切り口からの意見も多

数ありとても勉強になりました。第二部の當銘技師長による臨床検査説明書に関する講演は、臨床検査相談コーナー開設に向けた内容で、臨床検査技師からの新たな患者サービス実現への期待と意欲が高まりました。臨床検査説明書の第1版作成により、臨床検査相談コーナー設置開設の基盤づくりがスタートしたことを感じるとともに、さらに良いものにするため自分達も積極的に参加し、相談コーナー設置をより現実的なものにする必要性を痛切に感じました。

最後になりましたが、お忙しい中今回の研修会で講師をしてくださいました當銘技師長をはじめ、栃木地区会ならびに関信支部理事の皆様深く感謝申し上げます。



ルーチンアドバイザー紹介

生理 R A



NHO相模原病院

山 口 秀 樹

生理検査部門は、超音波・心電図・脳波・呼吸機能検査など多種多様な知識を求められる領域であり、生理検査部門に従事するスタッフの皆様は、日々知識の習得に努力されていることと存じます。私自身も、これまでに多くの先輩諸氏からの的確なアドバイスを適時頂戴し、日々の検査に活用してまいりました。これまでの経験を活かして適切なアドバイスが出来るよう心がけて行きたいと思いますので、疑問点などがありましたら気軽にご相談下さい。



NHO高崎総合医療センター

岡 村 治

生理部門(超音波・循環器領域)担当の岡村です。心臓超音波検査は心臓の形態、動態、血流情報を非侵襲的に得ることが出来る循環器領域では必須の検査法です。しかし、実際に記録、計測ができるようになってからも計測値の評価で悩むことがあるのではないのでしょうか。疾患や検査目的に合った検査の進め方や報告のポイント等を含め、私の経験から皆様にアドバイスできればと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



(独)国立がん研究センター中央病院

蓮 尾 茂 幸

RA制度は発足後約6年以上が経過しており、RA活動は大きな転換期を向えています。

今回、本部事業であったRA活動は更なる事業の展開に向け、各支部に活動の中心を移行することになりました。

現在、関信支部では学会・研修会等が精力的に行われています。今後はRA委員が今まで以上に関わることで学術面をサポートし活動の幅を広げ、支部会員のスキルアップにつなげていければと思います。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

地区会だより



平成23年度国臨協関信支部群馬地区会定期総会を終えて



NHO西群馬病院 川 上 喜 久

平成23年10月15日(土)、NHO高崎総合医療センター大会議室において、平成23年度国臨協関信支部群馬地区会定期総会が開催されました。当日は来賓として上條臨床検査専門職、田島関信支部長、金子関信支部理事にご臨席を賜りました。

総会に先立ち、上條臨床検査専門職からの連絡事項として、東日本大震災での被害状況やその後の取り組みについて、日本医師会精度管理調査の報告、NCとの人事交流、新採用者の登録選考試験、そして今年度より始まった主任技師等任用候補者選考についての内容でお話していただきました。

総会は、田島関信支部長と金子関信支部理事よりご挨拶と関信支部からの連絡事項をお話いただき開催されました。平成23年度経過報告、会計報告、会計監査報告、平成24年度事業方針案、予算案、新年度役員選出などが審議されました。群馬県内の4施設は、それぞれ距離も離れており、レクリエーション等を企画しても参加人数が少なく今後も開催するかどうか検討課題として残りました。

総会後は、高崎駅前の居酒屋にて懇親会を行い、会員同士親睦を深めました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演いただきました上條臨床検査専門職、ご出席いただきました田島関信支部長、金子関信支部理事に心より御礼申し上げます。

平成24年度	群馬地区会役員	
会 長	小 川 勝	(NHO沼田病院)
事務局長	鈴 木 喜久雄	(NHO西群馬病院)
会 計	中 村 良 幸	(NHO高崎総合医療センター)
理 事	竹 内 紗耶香	(NHO高崎総合医療センター)
理 事	小 池 朗	(NHO西群馬病院)
理 事	太 田 明 宏	(NHO沼田病院)
理 事	鈴 木 忠 利	(国立療養所栗生楽楽園)
会計監査	大 川 正 人	(NHO西群馬病院)



国臨協関信支部群馬地区会教育講演を聴講して



NHO西群馬病院 松 本 裕美子

平成23年10月15日(土)、NHO高崎総合医療センター大会議室において、国臨協関信支部群馬地区会教育講演会が開催されました。

まず初めに、NHO高崎総合医療センターの関口友一技師より「当院病理検査の現状」と題し、病理検査・細胞診検査の一連の流れを写真で紹介して

いただきました。労働安全衛生法施行令および特定化学物質障害予防規則の改正施行に伴う、作業環境改善への取り組みについてやキシレン代替品の使用経験まで詳しく説明

していただき、なかなか知ることのできない他施設の現状が分かり大変良い機会となりました。

次に、同じくNHO高崎総合医療センターの中村良幸主任技師より「新人教育チェックリスト(案)の概要と生理検査関連の経験談」と題した講演があり、新人教育のために作成したチェックリストの概要とご自身の経験談も交えた貴重な症例を提示していただきました。普段は生理機能検査に携わる機会がない私にとって、心電図の読み方やアーチファクトの対応の仕方など大変勉強になりました。

最後になりましたが、ご講演いただきましたNHO高崎総合医療センターの関口友一技師、中村良幸主任技師に感謝すると共に、今回の教育講演会を企画、開催していただきました群馬地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。

栃木地区会第2回研修会に参加して



NHO栃木病院 打 越 友 美

栃木地区会の今年度2回目の研修会が10月25日、栃木病院において行われました。今回は、シーメンスの関谷 健氏を講師にお招きし、『薬剤耐性菌とその感染管理』をテーマに大きく感染対策の重要性、微生物検査、薬剤耐性菌、感染拡大防止についてご講演いただきました。

感染対策の重要性では医療関連感染事故による内容を中心に、微生物検査では常在菌と起炎菌、環境由来菌、薬剤感受性試験などのお話を、薬剤耐性菌については、抗菌薬の耐性メカニズムを図解し、院内で問題となるMRSAやVRE、MDRP、NDM-1等の薬剤耐性菌の特徴を解説していただきました。また、感染拡大防止では感染対策マニュアルの作成、職員の感染対策研修、標準予防策実施の重要性などをお話いただきました。

NDM-1について、海外で医療行為を受け帰国の際に持ち込んだ医療ツーリズムの例や、海外渡航歴のない患者からの市中での拡散が示唆された例のお話がありました。これらは昨年、日本初の分離例で、感染拡大の危険性を身近に感じました。

また、医療関連感染事故による訴訟・賠償問題については病院全体の運営や医療機関としての信頼にかかわる重大なことであり、院内感染対策の重要性を再認識しました。

当院の院内感染対策の活動として、院内感染症対策委員会の開催をはじめ、週一回のICTラウンド、またイントラネット上にICTニュース、細菌検査室からは流行性ウイルス情報などを掲示しています。これらの院内活動も踏まえて、今回の講演を聴き感染対策への意識が更に向上し大変勉強になりました。

最後に、研修会を開催していただいた栃木地区会役員ならびにシーメンスの関谷さんに厚く御礼申し上げます。



地区会だより



第30回国臨協関信支部神奈川地区会定期総会を終えて



NHO横浜医療センター

角 谷 奈 帆 子

遠くの間々も澄みきり青空に映える季節となった10月22日、平成23年度神奈川地区会定期総会・研修会が久里浜アルコール症センターの研修棟大会議室にて開催されました。初めて訪れた久里浜アルコール症センターは久里浜の広い海を一望できる高台に建っていて、昔ながらの風情を感じる建物と玄関に立つヤシの木が迎えてくれたとても素敵な病院でした。当日は関信ブロック上條専門職、国臨協関信支部田島支部長、浅里副支部長にご出席いただき37名の神奈川地区会員が参加しました。

始めに『認知症の早期発見と当院の物忘れセンターの取り組み』という題で久里浜アルコール症センター内科診療

部長の松井敏史先生に御講演頂きました。アルツハイマーの病態や検査、治療についてのお話はとても興味深く、普段あまり見ることのないCTやMRI画像は大変勉強になりました。上條専門職からの伝達講習会では、今年から実施されている主任登用試験の実施方法や内容について、東日本大震災の被害状況や被災地域以外でも計画停電や試薬供給の遅れなどの影響が出たこと、その復興に向けてご尽力されている方々のお話などを伺いました。定期総会は滞りなく無事に終わり、今年度で退官を迎える横浜医療センター中島技師長へのささやかな退官セレモニーが行われ、長年のご経験とご苦労のお話を伺う事が出来ました。

今年度私は初めて理事を任せていただきました。他の理事の方をはじめ、色々な方々に助けていただきながら迎えた地区総会でしたが、準備期間も含め神奈川県内施設の横のつながりを強く感じることができました。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

国臨協関信支部神奈川地区会学術講演を聴講して



NHO神奈川病院 大 森 智 弘

平成23年10月22日(土)国立病院機構久里浜アルコール症センターにて開催された、第30回国臨協関信支部神奈川地区会定期総会に参加し、久里浜アルコール症センター内科診療部長で検査科長の松井敏史先生の学術講演「認知症の早期発見と当院の物忘れセンターの取り組み」を聴講いたしました。同センターは名前のとおりアルコール症の治療で有名ですが、認知症の治療外来である「もの忘れセンター」は平成16年より開設し、平成22年より外来診療を毎日行い認知症の診療に取り組んでいるとのことでした。松井先生は日本老年医学会認定専門医で、認知症の基礎知識から検査法、病理組織診断、画像診断、治療や予防

など大変理解しやすい講義をしていただきました。なかでも認知症には、アルツハイマー病をはじめ、脳血管疾患、アルコール症、甲状腺機能低下症、水頭症など多数の原因があり、それらに応じた各種検査を行い原因の特定をしなければならぬこと、治療に用いる薬剤の効果から早期発見・早期治療がいかに重要であるか、予防に関しては「健康寿命」＝自立の大切さなどの講義内容には、より一層認知症への理解を深めることができました。

最後に、お忙しい中、講義をして頂きました松井先生、ならびに神奈川地区会役員、担当施設の皆様の企画、準備等によりこのような貴重な機会を得ることができたことに厚くお礼を申し上げます。

平成24年度神奈川地区会役員

会 長 樋 口 久 晃 (NHO神奈川病院)
事務局 近 藤 正 (NHO箱根病院)
理 事 福 永 利 恵 子 (NHO相模原病院)
理 事 角 谷 奈 帆 子 (NHO横浜医療センター)
理 事 桑 村 良 隆 (NHO久里浜アルコール症センター)



千葉地区会第2回勉強会・懇親会を終えて



(独)国立がん研究センター東病院

荻 部 正 宏

平成23年11月5日(土)、国臨協関信支部千葉地区会第2回勉強会がNHO下志津病院で開催されました。当日は秋晴れで11月にしては暖かく37名の会員参加がありました。

今回は2部構成講演形式で、講演1では昨年の勉強会「薬剤感受性試験と耐性菌について」と言うテーマに引き続き、院内感染についての「感染対策の基本とICTラウンドについて」と題してNHO千葉東病院感染管理認定看護師 川島 郁先生に講演して頂きました。感染管理は職場単位での基本的知識と認識が重要であり、職場環境の整理整頓・清掃、適切な手指洗浄方法の理解、咳エチケットなどの重要性などを説明して頂きました。

また、ICTラウンドについてはラウンドにあたってのチェックポイントや注意点などラウンド時に撮られた写真を提示して、わかりやすく解説して頂きました。

講演2では「心電図の基本と危険な心電図(AEDの取り扱いも含む)」と題して日本光電工業株式会社に講演して頂きました。心臓の解剖学、刺激伝導系、危険な心電図の波形、心筋梗塞の心電図経時的変化、測定時注意点やアチファクトの対応などについて説明指導頂きました。

AEDの取り扱いでは、分単位での救命処置がその後の生存率などを大きく左右しに重要な点であるが、2010年のガイドライン改訂のなかで「呼吸がない場合は人工呼吸よりも胸骨圧迫(胸が5cm以上沈む程度の強さで1分間に100以上のテンポで押す)が優先される」ということに改正されたなどの改正点、AED使用方法の解説がされました。

両講演とも会員の関心が高く充実した勉強会を開催することができました。

講演終了後は会場を移し懇親会を行いました。会長の挨拶(出た料理は食べ放題、時間内のお酒は飲み放題、話はし放題、3拍子揃った飲み会と言う名の勉強会を始めます)、乾杯の発声とともに会が始まりより一層の会員相互の親睦を深め、第2回千葉地区会勉強会は閉会となりました。



地 区 会 だ よ り

第31回国臨協関信支部新潟地区会定期総会を終えて



NHO西新潟中央病院 山 本 直 樹

平成23年11月12日(土)NHO西新潟中央病院において、国臨協関信支部新潟地区会定期総会及び研修会が開催されました。当日は天候にもめぐまれ、多数の会員参加のもと、来賓として上條臨床検査専門職、国臨協関信支部より田島支部長、林副支部長の出席を賜りました。研修会では、講演Ⅰ「エコノミークラス症候群予防検診経過報告」と題してNHO新潟病院 臨床検査科 品田恭子先生より講演頂きました。

7年前に起きた中越大地震では、肺塞栓症予防のための下肢静脈エコー検査をいち早く開始し、その後「エコノミークラス症候群予防検診支援会」を立ち上げ、当初から先頭に立ち被災住民のフォローアップ検診を行ってきたそうです。立ち上げから現在までの体験談と苦労話を当時の写真を交えながらお話して頂きました。品田先生は本年度を最後に退官されると言うことで退官セレモニーも行われました。退職後も引き続き予防検診に携わって行くそうですが、今

後のご活躍をお祈り申し上げます。講演Ⅱでは「臨床検査部門の現状と課題」と題して、上條臨床検査専門職よりご講演頂きました。NHOの概要と運営方針、精度管理と試薬共同購入の経過報告、認定試験の取得状況について資料をもとにわかりやすくお話して頂きました。また、東日本大震災での被害状況の説明もあり、あらためて危機管理体制のあり方について再認識させられました。また本年度より始まった主任技師等任用候補者選考をはじめ人材育成(キャリアパス)では、職員ひとりひとりの更なる意識改革の必要性・重要性を感じました。

つづいて、国臨協関信支部の田島支部長と林副支部長からご挨拶と支部活動報告をして頂きました。定期総会では、平成22年度経過報告、平成23年度事業方針(案)ならびに新役員について審議され、会員の承認をもって無事終了することができました。

その後、新潟駅近くの居酒屋に席を移して、新潟の美味しい地酒と料理を食しながら親睦を深める事ができました。

最後になりますが、お忙しい中ご出席頂きました上條臨床検査専門職、田島支部長、林副支部長に心より御礼申し上げます。

国臨協関信支部新潟地区会活動報告



NHOさいがた病院 大 木 翔 平

新潟地区会は創設から30年が経過し、現在3施設・会員数24名から成っています。今回は平成22年度活動報告をこの誌面をお借りして、会員皆様にご紹介したいと思います。

平成22年度は新潟地区会の広報活動をさらに拡大した年であったかと思えます。その象徴としてロゴマークと新潟地区会会報の名称を新たに作ることにしました。地区会会員の皆様に募集を募り、様々な意見の中から決定致しました。

ロゴマークの由来は、『新潟県は「斜め」というイメージ。上越・中越・下越と区切り、四角にまとめ、そこに各施設を配置。佐渡は夕日の橙色、水量豊富な河川の水色、水田の黄緑色。若い技師が増えてきましたので、その勢いによって黄色の関東を「ちょっと食ってやろう」と言う感じです。』(作成者：古江主任)。会報名も新潟県を象徴する鳥「トキ」にちなんでつけられた「朱鷺っ」とに決まり、今までの無機質な感じから親しみのある名称になりました。中身も「読む」から「見る」へと写真を多く盛り込んだ内容へと変身を図り、配信方法もPDFファイルにて各会員に配信する形式へと変

更しました。今後はこれらのロゴマークと会報名をさらに多くの人に認知してもらうことが目標です。

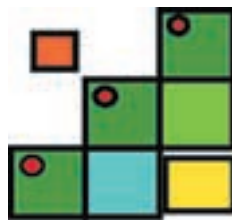
7月には交流会が開かれました。柏崎での海を眺めながらのBBQは会員相互のコミュニケーションが図れたと思います。

また、関信支部学会でのポスターコーナーが今学会から表彰対象となったことから当地区会でも総力を挙げて取り組みました。結果は残念でしたが、次学会ではさらに進化したポスターが掲示できればと考えております。

以上が平成22年度のおおまかな活動報告です。11月12日に第31回定期総会が開催され新年度がスタートしました。新年度も平成22年度に負けまいとさらに新潟地区会を発展させていきたいと考えています。

平成23年度新潟地区会役員

会 長	御子柴 佳 剛	(NHO新潟病院)
副 会 長	赤 堀 良 道	(NHO新潟病院)
事務局担当理事	大 木 翔 平	(NHOさいがた病院)
会計担当理事	霜 田 由美子	(NHO西新潟中央病院)
会 計 監 査	山 本 直 樹	(NHO西新潟中央病院)



平成24年度関信支部役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 小 松 和 典
委 員 内 野 厳 治
委 員 近 藤 正

平成24年4月の関信支部総会において役員の改選を行います。国臨協関信支部役員推薦規程第3条により役員を公募します。候補者は下記の要領にて委員会に書類を提出して下さい。

記

1. 施設名・氏名・年齢・性別
2. 職務歴
3. 会員歴
4. 国臨協関係役員歴
5. 抱負(簡単に)

締め切り 平成24年3月9日(金)

提出先 〒204-8585

東京都清瀬市竹丘3-1-1

独立行政法人国立病院機構 東京病院

臨床検査科 小 松 和 典



関信支部主催 症例検討会のお知らせ

■ 日 時

平成24年2月25日(土) 13:30~17:00 (13:00受付開始)

■ 場 所

(独)国立国際医療研究センター研究所 会議室A, B

■ 症例呈示施設

(独)国立国際医療研究センター国府台病院

覚えよう

身につけよう

検査技術!

生理検査(心電図)の基礎と"こつ" No. 1

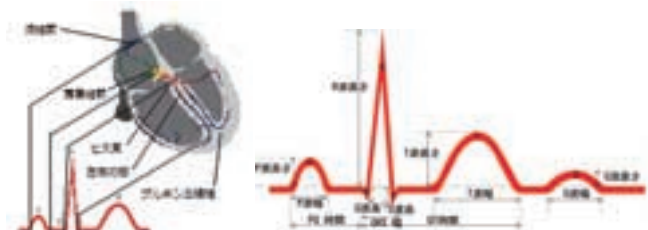
NHO東京医療センター 瀬戸 茂 誉

《基礎編》

1. 心電図でなにがわかる?

不整脈、心筋の異常（虚血性心疾患、心房および心室の肥大、心筋炎、心筋症）電解質異常、自律神経障害、薬剤の影響などがわかります。この中でも特に心電図の得意とする疾患は、虚血性心疾患と不整脈といえます。他の疾患については、心臓疾患診断の1つの手段となりますが、心電図だけで診断することはできません。

2. 刺激伝導系と心電図波形



洞結節で発生した電気興奮は心房内に伝わり心房が興奮するとP波を形成します。また心房を通過し心室に伝わるとQRS波が描かれ、興奮が収まるとT波が描かれます。誘導によってはT波の後には小さな波が描かれている場合があります。これをU波と呼びます。

■ワンポイント

U波の極性は、通常T波の極性と同一で正常例ではaVR以外は陽性であり、T波と融合する場合も多いです。陰性U波を確認したら虚血を疑ってみる必要もあります。

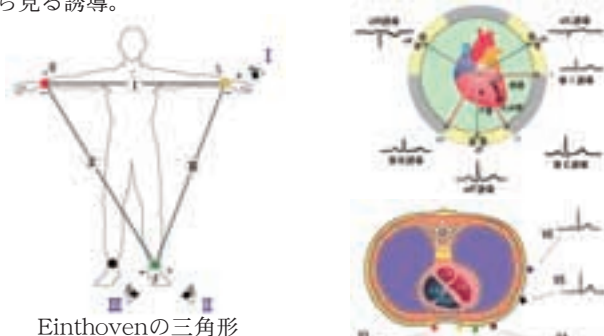
3. 心電図の誘導法＜四肢＞

・標準肢誘導

I 誘導:右手と左手間の電位差。II 誘導:左足と右手間の電位差。III 誘導:左足左手間の電位差。

・単極肢誘導

その誘導部位の電圧をそのまま記録しようとしたものですがそのままでは波形が小さいので、これを大きくする意味の誘導aV誘導が用いられています。aVR誘導:右肩から心臓を見る誘導。aVL誘導:左肩から心臓を見る誘導。aVF誘導:心臓ほぼ真下から見る誘導。



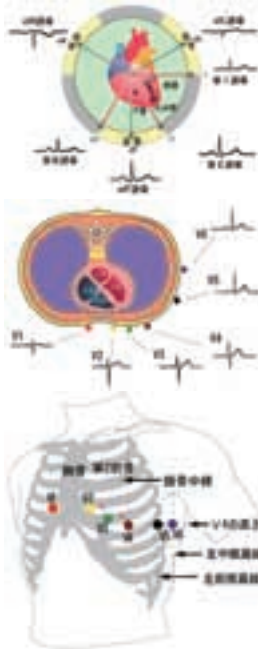
Einthovenの三角形

4. 心電図の誘導法＜胸部＞

心電図の胸部誘導は、右図のように水平面で心臓を様々な角度から眺めた誘導です。

<胸部誘導>

- V1: 第4肋間胸骨右縁
- V2: 第4肋間胸骨左縁
- V3: V2とV4の中間
- V4: 第5肋間で左鎖骨中線上の点
- V5: V4と同じ高さで左前腋窩線上
- V6: V4と同じ高さで左中腋窩線上



■ワンポイント

誘導が反映する心臓の部位

I、aVL:左室前側壁、高位側壁。II、III、aVF:心室下壁。V1、V2:右室、左室後壁。V3、V4:心室中隔、左室前壁。V5、V6:左室側壁を示します。

5. 心電図記録時の注意点

- ・電極は正しく装着します。(特に心筋梗塞の場合は、心電図波形が時間と共に変化するため胸部誘導は前回と同じ位置に付ける必要があるのに注意を要します。)
- ・筋電図ができるだけ入らないように注意します。(緊急時は体動も多く、筋電図が混入する場合があります。できるだけ筋電図が入らないよう努力します。どうしても筋電図が混入する場合はフィルターを使います。)
- ・心電図波形の確認をします。(波形をよく見て電極の付け間違いがないか確認します。また、電極を外す際も電極が正しく付いていたか確認しながらはずします。)

6. 心拍数の見かた

心電計の紙送り速度は25mm/秒です。記録用紙の1mmの目目は1(mm)÷25(mm/秒)=0.04(秒)、5mmごとの太い線の間隔は0.04(秒)×5=0.20秒です。心拍数は60(秒)をR-R間隔で割って求めます。心拍数(拍数/分)=60÷(R-R間隔)



■ワンポイント

まず5mmごとの太線上のR波を探し、次のR波が来るまで5mmごとに300、150、100、75と数えていくと、すばやくだいたいの心拍数が数えられます。

7. 電気軸を読む



電気軸とは、心臓の電気的中心を軸とした傾きを前面から見た平面（垂直面）に投影したときの水平軸に対する角度のことです。心臓の電気的中心は、前額面から後ろに向かって貫いているような形で左右に振れます。心室筋の肥大、虚血性心疾患などは大きくこの振れに関与しています。例えば、左室肥大、左脚ブロックや肥満などは、左に振れ、右室肥大、右脚ブロックは右に振れます。このように電気軸を求めることは重要なことですが、最近ではほとんどの心電計が軸を計算してくれます。また簡単なQRSの軸偏位の求め方を下表に示しました。

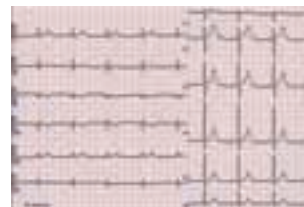
	I 誘	III 誘導
正常軸	+	+
左軸偏位	+	-
右軸偏位	-	+

*各誘導でQRS波の平均振幅が陽性的の場合を(+),陰性的の場合を(-)とする。

8. 心電図を読む順序

<見逃しの少ない心電図の読み方>

- ①R-R間隔（整か？不整か？）
- ②QRSに先行したP波があるか？
- ③P波の高さ・幅は（幅0.06～0.10sec、高さ2.5mm以下）
- ④PQ間隔は（0.12～0.20sec）
- ⑤異常Q波はあるか？
- ⑥QRS波の高さ・幅・形状は？（幅0.06～0.10sec）
- ⑦ST-Tの変化は？
- ⑧QT間隔は(0.36～0.44)
- ⑨電気軸は何度か？



正常心電図波形

■ワンポイント

上記の順序で心電図を読んでも見逃しが少なくなると思います。判読項目が幾つもありますが、数多く判読し慣れてくると、さほど大変さは感じなくなってくると思います。絶えず疑いの目をもちながら読み進めることが重要なことです。

編集後記

明けましておめでとうございます。

2011年は東日本大震災をはじめ、世界各地で自然災害の脅威に見舞われた一年でした。

今年は明るい年になるよう関信支部ニュース187号はフルカラーでお届けします！

今回は会員の皆様から、新年を迎えて今年の抱負などを投稿して頂きました。また『覚えよう身につけよう検査技術!』

は新シリーズ・生理検査（心電図）の基礎と"こつ"がスタート。ポイントをつかんであなたも心電図検査のエキスパートを目指しましょう！

さて関信支部のホームページがリニューアルされました。ご覧になりましたか？新たに「会員専用ページ」がオープンしてコンテンツも充実。ホームページに関するご意見ご感想などE-mailでお寄せ下さい(^o^)/ 広報 菅原 恵子